

Title	著訳者紹介
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.49, 2011.1 : 3-7
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2951
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

阿久戸 光晴 あくど・みつはる

1951年生まれ。一橋大学社会学部・法学部卒。住友化学工業株式会社勤務を経て、東京神学大学博士課程前期修了後、米国エモリー大学神学部大学院ほか。その傍ら聖学院大学及び聖学院アトランタ国際学校開設業務を担当。その後聖学院大学宗教主任兼助教授を経て、現在、聖学院大学学長兼教授。その他日本聖書協会新翻訳事業検討委員、荒川区不正防止委員会委員長など。

〔著書〕『近代デモクラシー思想の根源』、『説教集 新しき生』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』(共著)、『神を仰ぎ人に仕う』(共著)、『キリスト教学校の形成とチャレンジ』(共著)ほか、著書・論文多数。

毛利 透 もうり・とおる

東京大学法学部卒。現在、京都大学大学院法学研究科教授。専攻分野は憲法。

〔著書〕『民主政の規範理論』(勁草書房、2002年)、『表現の自由』(岩波書店、2008年)。

〔論文〕Die Geschichte des Begriffs „Schmähdikritik,“ Der Staat 47 (2008), S.258-276; Ein rechtsvergleichender Kommentar über Verfassungsänderung, in: Rainer Wahl (Hg.), Verfassungsänderung, Verfassungswandel, Verfassungsinterpretation (2008), S.183-198 など。

國分 典子 こくぶん・のりこ

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻博士後期課程単位習得の上、退学。エアランゲン・ニュルンベルク大学(ドイツ)法学博士。現在、筑波大学大学院人文社会科学研究科教授。専門分野：憲法、韓国憲法思想史。

〔著書〕Die Bedeutung der deutschen für die japanische Staatslehre unter der Meiji Verfassung, Verlag Peter Lang, 1993.

〔共編著〕『アジアの憲法入門』日本評論社、2010年(稲正樹・孝忠延夫と共編)など。

〔論文〕「北東アジア——『非西洋』のアイデンティティ：韓国を中心に」『法律時報』81巻8号(2009年7月)、102-107頁、ほか。

和田 守 わだ・まもる

1940年生まれ。東京教育大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程単位取得退学。山形大学教養部講師・助教授、静岡大学人文学部教授、大東文化大学法学部教授・学長。現在、大東文化大学名誉教授。

〔著書〕『近代日本と徳富蘇峰』（御茶の水書房、1990年）、『民族と国家の国際比較研究』（共編著、未來社、1997年）、『民友社とその時代』（共編著、ミネルヴァ書房、2003年）など。

西谷 幸介 にしたに・こうすけ

東京神学大学神学部卒・同大学院修士課程修了。バーゼル大学神学部博士課程修了（Dr. thelo.）。日本基督教団正教師。日本基督教団戸山教会協力牧師。女子聖学院短大講師・宗教主任、聖学院大学教授・大学宗教主任、青山学院大学非常勤講師、東北学院大学・同大学院教授・同キリスト教文化研究所所長、宮城大学非常勤講師を歴任。2008年より青山学院大学大学院教授（国際マネジメント研究科）・大学宗教主任（専門職大学院担当）、同総合研究所キリスト教文化研究部部長。日本基督教学会、日本宗教学会、日本経営倫理学会に所属。

〔著書〕『ロマドカとニーバーの歴史神学』、『宗教間対話と原理主義の克服』ほか。

〔訳書〕R・R・ニーバー『復活と歴史的理性』、グロール『トレルチとバルト』、パネンベルク『現代キリスト教の霊性』ほか。

深井 智朗 ふかい・ともあき

1964年生まれ。アウクスブルク大学哲学・社会学部博士課程修了。Dr.Phil.（アウクスブルク大学）、博士（文学）（京都大学）。現在、聖学院大学総合研究所教授。

〔著書〕Paradox und Prolepsis, Marburg 1996, 1999 (2.Aufl.), 『アプロゲティークと終末論』（北樹出版）、『政治神学再考』（聖学院大学出版会）、『文化は宗教を必要とするか』（教文館）、Harnack und seine Zeit, Marburg 2002, 『超越と認識』（創文社）、『十九世紀のドイツ・プロテスタントイズム——ヴィルヘルム帝政期における神学の社会的機能についての研究』（教文館）など。

松本 周 まつもと・しゅう

東京神学大学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院博士後期課程修了、博士（学術）。現在、聖学院大学総合研究所助教、日本基督教団教務教師。

〔論文〕「ラインホルド・ニーバーにおける power 概念について」（東京神学大学総合研究所

『紀要』8, 2005年), 「神学と社会福祉——ラインホルド・ニーバーの視点から」(『キリスト教社会福祉学研究』37, 2005年), 「日本におけるピューリタニズム倫理の受容」(『ピューリタニズム研究』2, 2008年), 「戦後日本とキリスト教——ピューリタニズム社会倫理の視点から」(聖学院キリスト教センター『キリスト教と諸学』25, 2010年) ほか。

木村 美里 きむら・みさと

1979年生まれ。Anglia Ruskin University (旧Anglia Polytechnic University) MA in European Language and Intercultural Studies修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。現在、聖学院大学総合研究所特任研究員。

〔論文〕「オクタヴィア・ヒルにおける「永続する精神」——理想実現としてのナショナル・トラスト——」(『聖学院大学総合研究所紀要』第44号, 2009年)。

竹淵 香織 たけぶち・かおり

聖学院大学総合研究所助教, 聖学院大学学生相談室室長補佐・カウンセラー。自由学園最高学部非常勤講師。臨床心理士, 臨床発達心理士。

〔著書〕『発達障害のある学生支援ケースハンドブック——支援の実際とポイント』(共著)(ジヤーズ出版, 2007年)

〔論文〕「学生相談室利用事例からみる退学者の傾向と支援——退学者減少のための糸口を探る——」(『聖学院大学総合研究所紀要』41号, 2008年) など。

徳永 貴志 とくなが・たかし

1975年生まれ。2009年一橋大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学。現在、聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科特任講師。専門は、憲法学, 比較憲法学。

〔主要業績〕「フランス第五共和制における修正権と政党システム」(『一橋法学』7巻2号, 2008年), 「フランス憲法改正における修正案提出権の現代化」(『工学院大学研究論叢』46巻2号, 2009年), 「フランス議会における審議の合理化——2009年議院規則改正についての覚書——」(『一橋法学』9巻3号, 2010年), アレクシス・ヴァラス「フランスの裁判官の抜きがたい二元論」日仏公法セミナー編『公共空間における裁判権』所収(共訳, 有信堂, 2007年), 園部逸夫・大森政輔編『ぎょうせい現行六法』(共著, ぎょうせい, 2010年)

オリヴィエ・カミィ Olivier Camy

1960年生まれ。パリ政治学院修了。パリ第一大学ではLuc Ferry氏に師事し政治学博士号およびHDR（研究統括能力資格）取得。現在、ブルゴーニュ大学、パリ政治学院教授。専門は、法理論、政治理論。

〔主要業績〕 *Droit constitutionnel critique, Essai de théologie juridique*, Editions l'Harmattan, 2007, “Le chef de l'Etat est-il souverain ?,” *RFDC*, n°25, 1996, “Le retour au décisionnisme: l'exemple de l'interprétation des pratiques constitutionnelles par la doctrine française,” *RDP*, 4-1996, “Le positivisme comme moindre mal ? Réflexions à propos de l'attitude des juristes français devant le droit antisémite de Vichy,” *RIEJ*, Bruxelles, 1997, “Présence irréelle du droit. A propos de la temporalisation du droit,” *RIEJ*, Bruxelles, 1998, “Famille et race sous l'Italie fasciste.” Rapport CNRS. Juillet 1999, Presses de l'Université de Nantes, 1999, “La controverse de l'article 68. Aspects théologiques.” *RDP*, septembre 2001, “Le droit de résistance à l'oppression: droit naturel ou positif ?,” revue *Le genre humain*, Seuil, novembre 2005, “L'engagement ontologique du juriste,” in E. Dockès, éd., *Au cœur des combats juridiques—Pensées et témoignages de juristes engagés*, Dalloz, 2007.

田中 佳 たなか・けい

一橋大学社会学部、パリ第1大学大学院考古学・美術史研究科を経て、2009年3月、一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。現在、一橋大学大学院社会学研究科特別研究員、聖学院大学政治経済学部ほか非常勤講師。専攻は近世フランス文化史・美術史。

〔論文〕「美術における『公衆』の誕生——1740年代後半の論争を中心に——」『一橋論叢』第131巻第2号、日本評論社、2004年2月、55-73頁；「王立美術館のメッセージ——ダンジヴィレの奨励制作とルーヴル宮美術館創設計画——」『日本18世紀学会年報』第20号、日本18世紀学会、2005年6月、55-66頁；「ダンジヴィレの奨励制作——自国史への関心と『フランス派』の形成」『鹿島美術研究』鹿島美術財団、年報第26号別冊、2009年11月、183-194頁；「ルーヴル美術館構想の萌芽——リュクサンブール宮ギャラリーの開設とその機能（1747-1750年）——」『一橋社会科学』2009年11月、第1巻第2号、1-13頁；「フランス革命前夜のルーヴル美術館計画（1751-93年）」『聖学院大学総合研究所紀要』第47号、2010年3月、461-490頁ほか。

〔翻訳〕『コロー展』（展覧会カタログ）、共訳、読売新聞社、2008年6月；『ルーヴル美術館展——美の宮殿の子どもたち——』（展覧会カタログ）、共訳、朝日新聞社、2009年3月；『ターナーから印象派へ』（展覧会カタログ）、共訳、アルティス、2009年7月ほか。

笹倉 秀夫 ささくら・ひでお

1947年生まれ。早稲田大学法学学術院教授。専攻：法哲学・法思想史。

〔著書〕『近代ドイツの国家と法学』（東京大学出版会，1979年）；『丸山真男論ノート』（みすず書房，1988年）他。